

船舶事故等調査報告書

平成26年12月18日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014広第132号
事故等種類	転覆
発生日時	平成26年5月4日（日、祝日） 13時40分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港 倉敷市所在の児島塩生 <sup>こしましおなす</sup> 四等三角点から真方位248°470m付近 （概位 北緯34°28.5′ 東経133°45.3′）
事故等調査の経過	平成26年7月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	ミニボート（船名なし）、全長約2.45m なし、個人所有
乗組員等に関する情報	操縦者、操縦免許なし
死傷者等	なし
損傷	船外機が濡損
事故等の経過	本船は、操縦者及び同乗者1人が乗船し、水島港の沿岸部で漂流して、操縦者が船尾部に、同乗者が中央部に腰を掛けて釣りを行っていたが、潮で沖に流されたので、操縦者が移動しようとした際、船外機のティラーハンドルのスロットルグリップ部を右手で持ち、スロットルを全開にし、ティラーハンドルを右舷側へ一杯に押し、左旋回したところ、左舷側に傾斜して左舷船尾付近から海水が船内に入ってきた。 操縦者は、とっさにティラーハンドルを左舷側へ一杯に引いて右旋回したところ、本船は、平成26年5月4日13時40分ごろ右舷側に傾斜して右舷船尾付近から海水が船内に入り、右舷側に転覆した。 操縦者及び同乗者は、付近にいたプレジャーボートに救助された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	本船は、幅約1.12m、深さ約38cmのプラスチック製のボートであり、船外機の出力が2馬力であった。 操縦者は、平成25年8月ごろ本船を購入した後、4～5回使用して不安定な船体であることを知っており、日頃は低速力で運転するとともに小舵角で旋回していた。 船外機は、廃棄処分された。 操縦者及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。
分析 乗組員等の関与	あり

<p>船体・機関等の関与          気象・海象等の関与          判明した事項の解析</p>	<p>あり          なし</p> <p>本船は、水島港において、沿岸部で移動する際、操縦者が、船外機のティラーハンドルのスロットルグリップ部を持ち、スロットルを全開にし、ティラーハンドルを右舷側へ一杯に押し、左旋回し、船体が左舷側に傾斜して左舷船尾付近から海水が船内に入った後、ティラーハンドルを左舷側へ一杯に引いて右旋回したことから、右舷側に傾斜して右舷船尾付近から海水が船内に入り、右舷側に転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、滑走型の旋回時特性（内方傾斜）により旋回側に傾斜したものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、水島港において、沿岸部で移動する際、操縦者が、船外機のティラーハンドルのスロットルグリップ部を持ち、スロットルを全開にし、ティラーハンドルを右舷側へ一杯に押し、左旋回し、船体が左舷側に傾斜して左舷船尾付近から海水が船内に入った後、ティラーハンドルを左舷側へ一杯に引いて右旋回したため、右舷側に傾斜して右舷船尾付近から海水が船内に入り、右舷側に転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニボートは、低速力で運転するとともに、小角度で旋回すること。</li> </ul>